

6-2 C型肝炎に対するLEMの治療効果 —長期経過について—

○高島 澄夫 (湯川胃腸病院食養内科, 放射線科)
佐々木浩一 (同放射線科)
湯川紘未 (同薬剤部), 湯川永洋 (同内科)
大橋康宏 (野田食菌工業)

【目的】椎茸菌糸体培養抽出物「LEM」はその免疫調節作用, 抗ウイルス作用により肝炎に対する治療効果が期待できる。B型慢性肝炎に対してはすでにその有用性が報告されているが, 今回はC型肝炎に対する長期の治療効果を検討する。

【対象・方法】対象はLEMを長期投与したC型慢性肝炎・肝硬変7例である。年齢は55歳~79歳 (平均66歳), 男性4例, 女性3例である。投与期間は12~22ヵ月 (平均17.4ヵ月) である。

LEMの投与は1日6gとした。LEM投与後毎月肝機能検査, core抗体価, HCV-RNA 定量, AFP値を測定した。

【成績】AST, ALT, ALB, CHE のLEM投与前後の値からみた改善例, 不変例, 悪化例の割合を検討した。前値の±10%を不変とし, 改善, 悪化の3段階で評価した。ASTは改善例57%, 不変例14%, 悪化例29%, ALT: 57%, 29%, 14%, ALB: 0%, 100%, 0%, CHE: 29%, 57%, 14%であった。core抗体価は低下14%, 不変43%, 増加43%, HCV-RNAは低下43%, 不変14%, 増加43%であった。投与中の副作用, 症状悪化等は全く見られなかった。

【結論】C型慢性肝炎・肝硬変例に対してLEMを投与することにより肝細胞障害の程度を改善できることを前回本学会で報告した。今回長期に渡る検討を行った結果AST, ALT の逸脱酵素では57%に改善がみられ, CHEは86%が改善または不変であり, 肝炎の抑制, 肝機能の改善にLEMは有用と考えられた。なお不変例の中には強力ミノファーゲンCの投与量を削減できた症例も含まれていた。C型肝炎ウイルスの抗体価の低下例は14%であったが, ウィルス量の低下例は43%みられLEMによるウィルス抑制の可能性も示唆された。以上C型肝炎に対するLEMの治療効果は緩徐ではあるが有用性が高いものと考えられた。